

令和3年度 「自己評価」

【本園の教育目標】

こころのねっこを育てる ～自らやることで学ぶ～

☆ひまわりコンセプトブック・各学年の教育課程を元に、「自ら行うことで学ぶ」直接体験・自然体験を保育の軸に、「げんき・ゆうき・えがお」が溢れる日々の保育を目指す。

【令和3年度 重点目標】

- ① チームの若返りに伴う新人育成
- ② 積極的にキャリアアップ研修に参加し、保育の幅を広げる
- ③ 報告・連絡・相談の徹底
- ④ 計画的に仕事を進め、残業を減らす

【令和3年度 重点目標】〈反省〉

☆副園長、主幹教諭、各チーム担任（正規職員）でR3年度3月末に実施

①チームの若返りに伴う新人育成

【KEEP】

- 若い1～3年目までの先生たちに対して、早め早めに先を見通せるように次に備えること（保育や行事に向けての準備）を伝え、計画的に準備できるように働きかけた。
- ピアノなどは「何月にこの曲を歌うよ」ということを早めに伝え、期日までに練習に取り組めるようにした。
- お誕生日会の企画・運営について、まず1学期に先輩の先生がお手本を見せ、2学期以降に若手先生に自分で企画・運営する機会を与えた。

【PLOBLEM】

- 幼児チームは2人担任制なので、自ら保育をどうしていくかを考える場面が少なくなってしまう、成長につながらない。
- 先に指導してくれるということが当たり前になってしまい、自主的に考えて行動する機会を奪ってしまわないようにしないといけない。

②積極的にキャリアアップ研修に参加し、保育の幅を広げる

【KEEP】

- 各学年の主任を中心に、広島県の夏季研修会や呉私幼の研修会に接触的に参加を行うことができた。
- 8月園内研修も兼ねての「小規模研修会」を実施し、子育て世代の短時間正規の先生など、普段研修に参加できない先生も研修会の参加ができた。

【PLOBLEM】

- 園からの働きかけにより先生たちが参加を決めるという状況なので、自らスキルアップ・キャリアアップを求めて研修に参加するようなムードを高めていきたい。

③報告・連絡・相談の徹底

【KEEP】

- 保護者からの申し出や、いのこり・バス利用の変更・子どもの様子などタイムリーに報告・連絡が、また確実にできるようルール作りなどに努めることができた。
- 毎日 16:00～のミーティングの時間を大切にし、ミーティングで確認すべき事項を「ミーティングルールブック」を作成し、誰が参加していても毎日の確認が徹底して行えるように工夫したこと。
- ミーティングノートを毎日担当職員が記載し、毎日 SNS を使って共有し、その日のクラスの様子や子どもの様子、行事の変更などが全職員に行き渡るよう取り組めた。
- 各主任が毎週水曜日に集まり、子どもの様子・クラスの様子・行事のことなどを共有・相談ができる「ウィークリー会議」をスタートし、各クラスの連携がスムーズに行えるようになった。

【PLOBLEM】

- 若手の職員が先輩の先生に対して、困っていること・分からないことなどが気軽に相談できる環境作りがこれからの課題。

④計画的に仕事を進め、残業を減らす

【KEEP】

- 行事や普段の保育の準備などを今まで以上に先を読み、準備を重ねることで残業の日を減らすことができた。
- 原則 17:00 までというルールを徹底し、残業する場合は前もって「残業申請書」を提出することを徹底したことで、全員が時間を意識して仕事に取り組めるようになった。
- ベテランの主任級の先生が早く帰るよう心がけることで、若手の先生が帰りやすい雰囲気少しずつ浸透している。

【PLOBLEM】

- 計画的に進めていても、コロナの影響で行事や保育の内容が大幅に変更を余儀なくされた場合などは計画的に行かず残業が増えてしまうこともあった。
- 残業申請書の申請について、時間が経つにつれ提出を忘れていたり、段々、なあなあになってしまう。

令和4年度に向けての反省・意見

☆重点目標に対する反省と、保護者アンケート「我が園の評価」を確認しながら正規職員（園長・副園長・主幹教諭・各チーム担任）で来年度のひまわり幼稚園としての重点目標を話し合い決定した。

〈子どもたちに対して〉

- 散歩・園外保育の機会をこれまで以上に増やす
- あいさつ・返事（目を見て）の徹底
- 自由制作の機会を増やす
- 五感を刺激する遊びを目指す
- 自主性を引き出す（自分で見つける、自分で気づく）

〈保護者に対して〉

- 積極的に保護者に普段の様子を伝える機会を増やす（子どもたちの変化を）
- 部屋を見る機会を増やすのはどうか（見える機会を増やす）
→ **保育の見える化**

〈保育士としての仕事に対して〉

- 今年度同様、それぞれがスキルアップを図り、子どもたちが真に育つ保育を求めている。
- 経験年数に関係なくお互いが意思疎通をはかれるような雰囲気作りに取り組む。

【まとめ】

- 全体的に、保護者アンケートの中に子どもたちの様子がわからないという意見が多数あった。コロナの影響により仕方がない部分もあるが、工夫することで改善できるのではという意見もあり、保育の見える化を図り、子どもたちの様子を積極的に保護者に伝えていくよう取り組んでいこうという話し合いになった。
- 設定保育が中心となってしまう、先生の指示を子どもたちが守るという場面が日常の保育で多くなってしまっていることが問題点として挙がり、自主性を引き出す（自分で見つける、自分で気づく）ことができるような保育を各学年で求めているということになった。

【令和4年度 重点目標】

- ① 自主性を引き出す保育の展開
(自分で見つけて自分で気づく)

- ② 保育の見える化
(保護者に日頃の様子が見えるように)

- ③ 保護者に積極的に子どもの様子を伝える

- ④ 目を見て元気なあいさつ・返事
(基本の徹底)